

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O190400838		
法人名	株式会社恵み野介護サービス		
事業所名	グループホーム フレンドリイ		
所在地	札幌市西区八軒10条東3丁目1-20		
自己評価作成日	令和5年6月6日	評価結果市町村受理日	令和5年7月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190400838-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○1ユニットなので落ち着いた空間で、自宅で過ごしている様にご自分のタイミングで自由に、過ごして頂いています。又職員は関わりを持ちながら入居者様の声を聞きながら、何を求めているのかを如何したいのかを観察し職員全員で考えて 実践する様にしています。
○暖かくなったら(4月~11月)毎月1回は遠出のドライブにいけます。厚田港。余市、増毛、当別、石狩などに出かけて食事をします。外の空気を感じていただき、楽しいという思いを感じて笑顔を見せて頂きたいと思っております。
○年3回の避難訓練を行っているが、町内の方々の協力を得ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム フレンドリイ」は、JR八軒駅から徒歩8分ほどの静かな住宅地に立地している2階建て1ユニットの事業所である。玄関や廊下、居間には季節感のある装飾や利用者の作品が掲示されている。法人理念とケア理念を毎朝唱和し、全職員で理念を共有して実践につなげている。運営推進会議は、書面会議の場合もテーマに沿った資料を配布して構成メンバーに意見収集するなど、充実した会議を開催している。職員育成の面では、計画的に研修を実施して全職員が「振り返り用紙」で学びを再確認するなど、職員の資質向上に積極的に取り組んでいる。外出面では、感染に配慮しながら花見やドライブ、個別外食など可能な限り感染症流行前と同じような支援を続けている。災害対策では、火災と地震、風水害想定訓練を実施するとともに、毎週利用者とは避難訓練を行い利用者自身も適切な避難方法を身につけている。代表者と管理者は、普段から職員の意見や提案をケアや運営に反映させ、各職員が得意分野を活かしながら充実した仕事ができるように環境を整えている。普段から家族の悩みや不安に寄り添い、親身に相談に乗っており家族の安心感と信頼につながっている。管理者を中心に全職員で各利用者の思いや意向の把握に努め、その方らしい生活が送れるように家庭的で温かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、基本理念は見やすい所に掲示しており、毎日の申し送りの最後に その日の勤務者全員で唱和し身分証明書にも明記しており いつでも確認出来ます。	法人理念とケア理念に地域との関りについて具体的に明記し、玄関や事業所内要所に掲示している。職員のネームプレートの裏に記載し、毎朝唱和することで全職員が理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為以前の様な交流は出来なかったが、その中でも町内会、学校の廃品回収を行ってます。町内の会議やゴミ拾い等にも参加しています。町内会の皆様は避難訓練や運営推進会議にも参加して下さいます。	感染症の流行により地域行事に参加することは難しかったが、職員がごみ拾いに参加したり地域の方から排泄用品の寄付を受けている。感染症の収束状況を見ながら、地域のお祭りや音楽会への参加を考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であった為地域の方々との交流は大変難しい状況でしたので町内会の会合に参加した時に認知症についてのお話をさせていただいたり、運営推進会議では町内会長他役員さん書類を送らせて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面会議では有りますが二ヶ月に1度、職員と会議を行い構成委員の皆様と職員との会議内容を書面にてお知らせし、後日電話でご意見を頂戴しております。御家族様にもお便りと一緒に送付しています。	前年度は主に書面会議を開催し、毎回テーマに沿った資料を添えて議事録と一緒に全家族に送っている。面会時や電話で添付資料に関する質問を受けることもあるが、参加できない家族の意見や質問が会議に活かされているとは言えない。	家族代表の意見にとどまらず、参加できない家族の意見や質問なども会議に反映させるような工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事は札幌市事業指導課に問い合わせをしたり、生活保護課にはなるべく訪問し担当者の方と直接話をする様にしている。	札幌市事業指導課に虐待防止委員会の開催方法について確認したり、ケアマネジャーの変更届の提出などで役所に出向いている。生活保護課の担当者が来訪した時は、利用者の様子を伝えながら情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は午前7:30～午後7時迄していません。日中はリビングから廊下、玄関への扉の施錠もしていません。「身体拘束適正化委員会」も年4回行っており職員にも年間4～5回内部研修を行っております。特に不適切ケアのグレーゾーンについては会議研修等で常に話合っています。	身体拘束のマニュアルを整備して年4～5回研修を行い、全職員が「振り返り用紙」を記入して研修内容を再確認している。身体拘束適正化委員会の記録に、身体拘束の有無や拘束につながりやすい対応などについて検討した内容も今後は記載したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	『身体拘束適正化委員会』の報告と研修を定期的に行っており、毎月の会議にも入居者様の変化や対応など意見交換し虐待防止に努めています。		

グループホーム フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在はいらっしゃらないが、今後必要とされる方がいらした時は関係機関と協力して対応したいと思えます。又職員も研修の機会を持ちたいとおもいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	問い合わせを頂いたら、1度見学に来ていただきホームの運営方針等の説明をさせて頂きご納得いただいてから、ご本人様との面談ご入居となります。入居時に改めて契約内容、重要事項の説明を行い質問等にお答えし御家族様のご理解とご納得を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様からのご意見を記入して頂けるようにご意見箱を面会場所に設置しております。コロナ来訪されるご家族も少ないですが電話でのご要望などにもなるべく職員と話し合い社長等とも相談し対応出来るように努めております。	面会時や電話の機会に家族の意見や要望を聞き取り、「ご家族の声」ノートに記入している。感染症流行時の面会について、電話で家族の意見を聞いている。個別の「フレンドリィ便り」を年5回ほど発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議や管理者と話す機会を作って意見を話し管理者は社長に話を挙げてくれる。社長はホーム適時に来訪される時に話をしている。	代表者や管理者は、普段から職員の意見や提案を聞き取り、ケアや運営などに反映させている。各職員は、得意な分野を活かして係を担当している。管理者は年2回、職員と個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	どこまで代表者が解ってくれているかはわからないが、眼に見えての環境の変化が感じられないが、勤務状況等は管理者がシフト等で整えてくれます。又会社では自己評価の提出を年2回行っており、その時に管理者との面談もあり管理者は社長に報告、相談を行います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はグループホーム独自で毎月の会議の時にしていますが、法人での研修は無い。しかしコロナが落ち着いて外部研修に全職員が受ける事ができるようになりました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナで直接交流は出来ないが書面や電話等で情報交換を時々行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時にご家族、ご本人と話しをしケアマネはご本人と会話をしてケアプランに反映します。又職員は入居者様が不安を感じない様に担当を決め関わりを多く持つようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の時にご家族様が今困っている事や不安をお聞きし、入所してご家族もご本人様も安心して生活して頂ける様に密に話し合いを行います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	始めにケアマネージャーがご家族様とお話しし入居者様とも関わり話をしてご本人にどのようなサービスが良いのか職員とも会議を行い対応を考えてサービスに反映するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の会話の中から個々の得意な事や好きな事を日常の中に取り入れたり職員と一緒にいき信頼関係を築く様に職員は努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や電話、来所されたときにはご本人の様子をお伝えし、又要望などをお聞きして出来る限りの協力をさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室にはご家族の写真を飾ったり、コロナが落ち着いたときには時間を決めてでしたが面会を行いました。また墓参り等の外出を行って頂いたり、正月に自宅に帰る等コロナ対策を行い実現しました。	感染症の流行や高齢化により、知人や友人との交流は少なくなったが、家族が面会に来たり親族から電話が来る利用者もいる。感染に配慮しながら、職員と一緒に馴染みの場所への外出や外食などにも出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションの取れる方同士を同じ席にして日常で会話の出来るようにしています。又、職員と一緒にレクリエーションを行い入居者様同士のコミュニケーションの仲介役となる様に支援致します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前には退去された方が亡くなられた時などはご連絡して下さっていました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いに応えられる様に好きな事やりたい事を聞いたり、観察をしながら把握に努め対応している。又ケア会議で一人一人のカンファレンスを行い職員で検討し実践している。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。センター方式シート(B-3)に興味や嗜好を具体的に記入し毎年更新している。「ICF整理シート」を作成して、できる活動やしている活動なども記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様にセンター方式B3シートの記入をお願いし、入居後は職員がご本人との会話から記入しサービスへの反映と日常生活にも反映する様にしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル、排泄、水分、食事量、入浴、更衣時の身体チェック、毎日のご様子等を記録に記入し各ファイルにて共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医療の意見、意向をお聞きし又、ケアマネがご家族からお話しをお聞きして、会議でのカンファレンス、で担当職員がアセスメント、モニタリングシートを作り全職員での話し合いで介護計画を見直しています。	毎月全員のモニタリングを行い、3か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録にも、サービス内容の番号を記入して会話内容や様子を記録している。第1表の家族の意向も、具体的に記入したいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護記録に記入しています。ご様子や行動、発した言葉を記入しケアプランに沿ったサービスには番号を記録に記入しています。何時もと違う事などの事実には職員同士で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナで面会も制限がある為、ご家族でご本人に関わりたいたいなどのお話があり、受診対応等を希望されるご家族にはお願いしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携では、地域の廃品回収や小学校の廃品回収、火災時などの協力等、地域の皆様のご協力が出来ています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一回の在宅診療の往診医は、新しい医者になって細かい事にも対応してくれ、緊急の往診も直ぐに来てくれご家族様にも親切に丁寧に説明してくれています。	全員が協力医療機関の往診を受けている。専門医などを家族と受診する時は、状況に応じて書面で様子を伝えている。往診と受診の記録は個別に記入している。	

グループホーム フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回当社の訪問看護師が来ています。入居者様に何か不安な事があった場合は往診医に受診ノートに記入して報告をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナで今までの様に病院へ行くことが出来ませんが、電話で状況を聞き退院の相談が来た時は素早い対応をする様にしていました。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にはご家族様に終末期のお話をさせて頂いています。看取りを行う事になった時には、ご家族、往診医、訪問看護、と何度も話し合いご家族が納得されて、職員の研修と話し合いを再度行い看取りに進みます。	利用開始時に、重度化対応に関する指針に沿って事業所として可能な対応について説明している。主治医の判断の下、看取りも可能であることを伝えている。利用者の体調変化に応じて、主治医、家族、事業所で方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルはホーム内に掲示しています。AEDの研修も行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に火災訓練は2回、地震訓練1回、風水害1回の合計4回行っています。昨年はコロナで町内会の方々の参加が叶わなかったが全職員が対応出来る様にシフトを組んでおり、マニュアルのあります。	感染症の流行で自主訓練が多かったが、今年の5月、消防署と町内会長の協力を得て屋の火災を想定した避難訓練を実施している。週1回、利用者と避難訓練を実施し、避難方法を身につけている。救命講習も計画的に受講を進めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人に合わせた対応や名前も、それぞれの名字でお呼びしており馴れ馴れしくならない様に、言葉使いにも注意しています。	呼びかけは苗字に「さん」づけとし、言葉かけなどで気付いた点はケア会議の際に注意している。申し送りは部屋番号を使っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で職員とのコミュニケーションを大切にして入居者の日常会話からの思いを大切に実践しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしの中で自分のやりたい事は職員は見守り出来ない所は一緒にやっています。料理や台所の仕事など自由にして頂いています、その中で支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週二回の入浴着替え、又朝起きてからご自分で洋服を選んで着ていただいたりお化粧などもされています。		

グループホーム フレンドリイ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせて、キザミ食やミキサー食トロミ等の対応を行い、食後は茶わん拭き等もしていただいています。お菓子作りなど入居者様と一緒に過ごしています。	品数豊富な献立により食事を提供している。利用者が下ごしらえや食器拭きを手伝い、誕生日には手作りのケーキを提供している。感染に配慮しながら、少人数での外食にも出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて水分量や塩分、食事の形態を考慮して提供しています。水分もお一人おひとりに対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に口腔ケアを行います毎晩義歯は消毒をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて管理をしています。間隔を職員が見極めてトイレに誘導しなるべく自力排泄に繋がる様に支援しています。	全員の排泄チェック表でパターンを把握し、誘導や介助を行っている。誘導時の声かけは羞恥心に配慮している。日中は全員がトイレで排泄でき、夜間は状態に応じてポータブルトイレを使ったりベッド上で排泄用品の交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表で排便の管理を行い毎朝の送りの時に、自力排便が難しい方は下剤の処方を行います。又起床時には牛乳を提供し訪問看護の日には、-3日で腹部マッサージや浣腸をおこないます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2~3回の入浴を行います。拒否をされる方には時間をずらしたり翌日にしたりと対応しています。	火曜と水曜、金曜と土曜、午前中の入浴を基本としているが、他の曜日でも入浴可能で各利用者が週2~3回入浴している。湯加減を好みに調整したり、職員と会話を楽しんでいる。シャンプーなども個々に好みのものを使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は街頭が明るい居室は遮光カーテンをしたり、布団に入ってから自宅でもラジオを聴いて寝ていた方などはここでも、続けておいでです。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりに担当職員がいて、その職員の責任の下、薬のセットをしています。また薬が変わった時には全職員がわかる様に受診ノートに記載しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理担当の職員が食べたい物をお聞きして献立を考えたり一緒に作ったりして食べる楽しみを考えて実践しています。又、天気の良い日は散歩やドライブにも出かける。		

グループホーム フレンドリィ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かくなってきたら、散歩に行ったり毎月一度は外出レクにいきます。夏は海へ行き秋は紅葉を見に、春は桜の花を見に出かけます。又御家族様とも墓参り等にも出かけられます。	日常的に周辺の散歩に出かけ、車いすの利用者も一緒に行っている。近くの新川沿いや福井方面に花見に出かけたり、余市のワイナリーにもドライブで行っている。個別の外出では、寿司、焼肉、お菓子などを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でのお金の管理が出来る方はいない為ホームで管理をしています。嗜好品やレク時の食事など医療費等の支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの最中は電話でお話して頂いたり手紙は書ける方には、返事を書いて頂いていました。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースのリビングには自宅にいる時のように自由な空間にしています。掃除は毎日行い、壁には皆さんで作った壁飾りや飾っています。	共用空間には大きな窓があり明るい。利用者は日中のほとんどを1階の居間で過ごしている。手作りの装飾や歌の歌詞を掲示し、ラジカセや遊び道具も用意している。利用者はそれぞれの好みの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の状況に合わせて席を替えたり、廊下でゆっくりと新聞を読んだりするスペースがあり行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い馴染んだ物を持ってきて頂いています。又ご家族の写真も居室に飾っております。	居室にはクローゼットがあり、利用開始時に部屋にもともとあったベッドを使う利用者が多い。個々にテレビやラジオ、タンス、戸棚など、馴染みのものを持ち込んでいる。本人が作った装飾を壁に飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日のレクは何処に何が有るのが皆さんはわかっているの自分で出来る事したいことは自分で用意します。又居室には自分の部屋が解らなくなるような様ネームプレートを掛けています		

目標達成計画

事業所名 グループホーム フレンドリィ

作成日：令和 5年 6月 28日

市町村受理日：令和 5年 7月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議を行う事を構成委員のご家族だけではなく委員以外のご家族にも知らせたり、ご意見をお聞きするなどを行っていなかった。	運営推進会議の議事録はお送りしていたが、運営推進会議の日時のお知らせをして参加を募ったり、行い家族様の声を反映していきたいと思います。	運営推進会議の一ヶ月まえには、電話等で開催日の日時のご連絡やご意見などをお聞きして会議での議題として話し合う事として行きたい。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。